

養魚情報

No.01-05(176号)01.07.23.発行
大分県海洋水産研究センター
養 殖 環 境 部
0972- 32- 2155 ㉒136
(創刊:81- 5- 1)

病魚診断日誌

— It's Too Late*(お待たせ！類結節症) —

ブリ稚魚に類結節症(類結)が発生しない今年のミステリー。このテーマで原稿を書きはじめた直後に、魚病担当職員の一部に夏風邪が流行？し、筆者もダウン。原稿作成を中断している間に、類結のモジャコが持ち込まれ、今年初の確認となりました。7月12日のことです。

1. 類結節症のこと

実は6月の中旬にマダイ、下旬にカンパチから類結の菌が分離されていたのですが、いずれもブリへ拡大することなく終息した模様なので、ここではブリの類結に限って話を進めていくことにしました。右表は、最近8年間の診断カルテから各年のブリ類結初確認と最終確認日をまとめたものです。類結が発生した場合、すぐにセンターへ診断依頼があるわけではないので、初確認日は初発日から数日遅れることとなりますが、それぞれの年の初発日の目安にすることができます。この中で最も早いのは平成10年の5月27日、遅かったのは8年の7月1日で、平成6年～12年の初確認日を平均すると6月14日となります。今年は7月12日ですから、ブリの類結発生は例年よりも約1か月遅かったと考えて良いでしょう。また、最終確認日は初確認の遅速とは関係な

ブリ類結節症の初確認および最終確認日		
年	初確認日	最終確認日
平成 6年 (1994年)	6月 17日	10月 28日
平成 7年 (1995年)	6月 15日	11月 6日
平成 8年 (1996年)	7月 1日	10月 9日
平成 9年 (1997年)	6月 12日	10月 15日
平成10年 (1998年)	5月 27日	10月 23日
平成11年 (1999年)	6月 23日	11月 10日
平成12年 (2000年)	6月 6日	12月 4日
平成13年 (2001年)	7月 12日	??月 ??日

さそうですが、ここ2年遅くなる傾向がみられています。

なぜ、発生が遅いのか？皆さんから質問を受けますが、正直言って見当もつきません。ただ、最近類結に何らかの変化がおきているような気がします。平成11年以前は初確認から約2週間後にABPC耐性菌が分離されることが普通でしたが、ここ2年間はセンターでアンピシリン(ABPC)耐性菌を分離しておらず、ほとんどの養殖場でABPCだけが類結対策に使用されたと聞いています。もちろん今年も7月19日現在、分離株のABPCに対する感受性は良好です(ABPCが良く効いています)。類結に何がおこっているのでしょうか。

さて、少し話の方向を変えましょう。今年のように発生が遅れると、このまま類結が出なければ良いのに、と思っておられた方もあるでしょうね。少しでも病気の発生が減るのは大歓迎ですが、小心者の筆者などは余計な心配をしてしまいます。もし、今年のモジャコの大部分が類結の発生なし(類結に対する免疫を獲得せずに)に成長すると、1才魚になった来年、類結の被害を受けるのではないかということです。稚魚のうちに類結をある程度経験させておくことは、ブリ養殖に必要なテクニックです。予防投薬、見切り投薬などは絶対に避け、薬剤乱用(薬づけ)にならないよう注意が必要です。

2. ワクチンのこと

前号(175号)で特集しましたが、ビブリオ病とレンサ球菌症の2種混合注射ワクチンを中心に、ワクチンの使用が順調に普及しているようです。7月19日現在、大分県のワクチン使用指導書の発行は59件(去年は1年間で33件)で、その内訳は、

イリド不活化ワクチン「ビケン」(田辺製薬株式会社)：注射

マダイ：指導書発行4件、投与予定尾数205,000尾

ブリ：指導書発行7件、投与予定尾数105,000尾

ピシバック 注 ビブリオ+レンサ(共立商事株式会社)：注射

ブリ：指導書発行28件、投与予定尾数1,192,000尾

ピシバック レンサ(共立商事株式会社)：経口

ブリ：指導書発行20件、投与予定尾数532,500尾

となっています。イリドウイルス病の注射ワクチンはマダイ(対前年比121%)、ブリ(対前年比263%)といずれも増加してます。レンサ球菌症のワクチンは、注射と経口を合計すると1,724,500尾に投与されることになります。経口ワクチンだけが使用できた昨年1年間の投与実績は920,400尾ですので、シーズンなかばにして昨年の87%増と、すごい伸びです。経口ワクチンは9月頃まで使用がつづくことでしょう。

前号でも紹介しましたが、ワクチンの種類(注射、経口)にかかわらず、水産用

ワクチンを購入するには、ワクチン使用指導書を販売店に提出しなければなりません。指導書が必要な方は、指導書交付申請書に必要事項を記載、押印のうえ海洋水産研究センターに提出(持参または送付)すれば、数日で交付できます。この指導書交付申請書の様式がインターネットからダウンロードできるようになりました。海洋水産研究センターのホームページ(<http://www.mfs.pref.oita.jp/>)をご覧ください。この養魚情報のバックナンバーもこのホームページにありますので、興味のある方はアクセスをよろしく！

3. ヒラメのこと(予告)

先日、某組合長から、「最近の養魚情報はヒラメの話題が少ない！」とのお叱りを受けました。魚病担当の立場からすると、エドワジェラ症は根強く発生しているものの、今の時季に大きな魚病問題はないように思われます。しかしながら、昨年の本紙167号で紹介しましたヒラメのウイルス性出血性敗血症(VHS)の問題が解決した訳ではありません。現に、今年の春先にも大分県下で数件のVHS発生が確認されております(被害は昨年より少なかった模様)。

現在、海洋水産研究センターでは、このVHSの感染経路を中心に研究を進めておりますが、最近興味深い実験結果が得られつつあります。じらすわけではありませんが、この研究は継続実施中で、VHS発生シーズン(低水温季)に間に合うよう成果をまとめて、ヒラメ養殖の方にお知らせいたしますのでしばらくお待ち下さい。

余談: サブタイトルは、類結の発生遅いぞ！にかけてみたものです。シンガー＝ソングライター「キャロル・キング」の最も有名な曲。失恋の詩で、もちろん、病気とは全く関係ありません。昭和46年といえど30年も昔、筆者はまだ中3。意味も解らず聴いていたに違いないこの曲が収録されているアルバム「つづれおり」→には、最近小柳ゆきがカバーした「I Feel the Earth Move」も入っていることを付け加えておきましょう。

(福田)

* by Carole King(1971)



主要疾病診断状況(4月1日～7月15日分, 赤潮被害, 不明病や健康診断等を除く)

魚種	病名	4月	5月	6月	7月 (15日現在)
ブリ	ウイルス性腹水症		5	2	
	ビブリオ病	1	1		
	類結節症				1
	細菌性溶血性黄疸			1	
カンパチ	レンサ球菌症(α)	1	2	6	2
	ミコバクテリア症			1	
	ウイルス性腹水症		1		
	ビブリオ病	1	1		
ヒラマサ	類結節症			2	
	レンサ球菌症(α)	1		1	
	はだむし症	1			
	レンサ球菌症(α)	6	8	4	2
ブリヒラ マダイ	ゼウクサブタ症			1	1
	レンサ球菌症(α)			1	
	エピテリオシスチス病	1	1		
	バスツレラ症			1	
ヒラメ	滑走細菌症	1			
	トリコジナ症	1	1		
	ビバギナ症		1	1	
	ラメロディスキス症		1		
マサバ	血管内吸虫症	1			
	リンホシスチス病		1		
	ウイルス性出血性敗血症	1			
	ビブリオ病	1	1		
イシガキダイ タイリクスズキ	エドワジェラ症		5	6	
	滑走細菌症	2	1	3	
	イクチオボド症		1		
	スクーチカ症		1	1	
マサバ	滑走細菌症			1	
	レンサ球菌症(α)			1	
	レンサ球菌症(β)			1	
	滑走細菌症		1		
イシガキダイ タイリクスズキ	脳粘液胞子虫症			1	
	ダクチロギルス病		1		